

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
容器包装の分別収集・処理に係る拡大生産者責任の 制度化に関する研究	関東学院大学 安田 八十五	45.4	40.7	52.1	44.8	42.8	44.3	46.0
<p>(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入</p> <p>容器包装のリサイクル費用に関する研究はいくつかなされているが、本研究では、平成16年度は、横浜市・柏市など6自治体の分別収集費用・処理費用を綿密に調査し、標準的費用積算マニュアルを作成した。これまで容器包装廃棄物のリサイクル費用は主に重量ベースで測定されていたが、本研究では容積ベースで測定・評価するため、容器包装素材別『かさ比重』(『逆かさ密度』)を実測し、容器包装の収集費用を初めて素材(ペットボトル・アルミ缶など)別に容積ベースで測定することに初めて成功した。さらに、フランスとドイツの拡大生産者責任制度(EPR)の普及割合や効果等の海外現地調査を行い、EPRの導入状況を精査した。今後は、容器包装リサイクル費用の全国自治体規模の調査を行い、日本型EPRの制度化に関する政策提言を行う。</p>								
<p>(評価コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実績ベースの処理費用の統一的試算ができるのか？ ● 容り法の見直しに貴重なデータを提供する研究であり、有益である。 ● 初年度の解析としては一応の成果はあがっているが、より詳細なデータのチェックと解析が必要。 ● 社会的ニーズが非常に高い研究。費用の範囲(どこまでを含むか)を明らかにしてほしい。 ● 日本での容器包装リサイクルでの費用負担のあり方についての理論展開が望まれる。 ● 最終成果をもって、現実の何を変えようとしているのか、明らかにしてほしい。 								

注1) 総合評価等の数値は偏差値である。

注2) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。